



TOKUYA TIMES

とくや
タイムズ

自由民主党
豊橋市議団
個人版

http://ito-tokuya.com/tokuya

伊藤 とくや

Autumn, 2014, vol.30

人口減少、大災害リスク、老朽化社会における ま ち 次世代が輝く持続可能な都市づくりについて

母になるなら、流山市。

自然に生まれ活気のある街で子育てしなくて、田園調布から流山市に越してきたクリスさん一家。



さまざまな取り組みで、子育て世代を応援します。駅での送迎保育、小中保護校の新設など、育児や教育の環境づくりが進んでいる流山市。街中に森や公園があり、緑の豊かさは都心から20分圏内と思えないほど。母として育児を楽しみ、家族みんなが笑顔になれる流山市、いかがですか。

人も自然もフレンドリーな、流山市に住んでよかった。

自然が身近で空も大きい。子どもたちと虫や鳥の声を聞き、よく散歩に出かけます。市のイベントも多く、流山市の皆さんと仲良くなれるのも嬉しいです。ショッピングや駅内への通勤に便利なのは、思った通りでした。

父になるなら、流山市。

自然に親しみながら子育てをしなくて、都内から越してきた小松さん一家。



働き盛り、子育て盛りの30代夫婦に選ばれています。育児のために流山市に移り住む若い夫婦が増えています。都心から約20分の駅アクセスと豊かな緑、緑地に住むイタメシの気配も感じます。自然の中で子どもの成長を楽しみたいお父さん、流山市をお待ちしています。

自然が家族になる街。子どもの故郷に流山市。

都内に通勤しやすく、自然の中で子育てができるので流山市を選びました。市野の森を散歩したり、夜の散歩で星を見たり、父としての毎日を心から楽しんでいます。夫婦とも自然豊かな場所だったので、流山市は子どもたちの故郷がぴったりと感じています。



30号発行についてのご挨拶

- 人口減少社会においても成長する都市(まち)づくりには何が必要なのか？
- 地震・津波・液状化、年々大型化する台風、ゲリラ豪雨・土砂災害など、大災害へのリスク対応には何が必要なのか？
- 国は老朽化した公共施設は勿論、道路橋梁や上下水道の管理を地方自治体へゆだねるとしている。朽ちるインフラへの対応には何が必要なのか？
- 豊橋・東三河の将来に希望が持てるために・・・何が必要なのか？



9月議会一般質問にて、私は「次世代が輝く持続可能な都市(まち)づくりについて」として、人口減少社会を迎えた本市を健全な状態で次世代に引き渡し、如何にして持続的な発展を遂げていくかについて「成長と子育て世代」「災害と都市計画」「公共施設の保全」そして「広域連携」の切り口から議論しました。

そこで、人口減少、大災害リスク、老朽化社会における、次世代が輝く持続可能な都市づくりについて

- 1 人口減少社会においても成長する都市づくりについて
 - ① 人口減少社会においても発展する持続可能な地域産業の方向性について
 - ② 若い世代を惹きつける政策の認識と対応について
- 2 次世代のための大災害のリスクに備えた都市づくりについて
 - ① 将来を見据えた災害に強い都市づくりの考え方について
- 3 次世代のための社会資本の充実について
 - ① インフラが老朽化する中での公共施設の維持管理の考え方について
- 4 次世代が希望を持てる地域づくりについて
 - ① 新城以北の市町村の消滅可能性都市の懸念への認識について
 - ② 地域資源を活かす先進的な取り組みについて、質問していただきました。

※以下、ポイントをまとめて紹介いたします。

人口減少社会でも成長する都市づくりに必要な要素とは？

- 若い人たち特に子どもを持つ世代は、働き手であり消費の主役である。また、この世代は増大していく高齢者を様々なかたちで背負う役目も果たす。
- 日本全体の人口が減少する中、こういった世代(若い人たち)が地方から大都市に流出していくことこそ問題があるといわれている。
- 👉 それではどの様な都市づくりをすれば人口が集まるのか、集められるのか？
- 👉 安定した雇用の場があり、魅力的な生活の場があること。
- 👉 社会全体で子育て家庭を支え、子どもを生み育てやすい環境を築くこと。

「持続可能」な都市とは？ 将来の環境や次世代の利益を損なわない範囲内で社会発展を進める理念を持つ都市。実現には都市の諸活動が活発に不安なく営まれることが何よりも大切だが・・・

豊橋市が持続するところについて、難しい問題があらわれて来た！

- 1 『人口減少・少子高齢化』問題
 - わが豊橋市は「人口減少社会」に突入したと思われる。
 - 総人口に占める 65 歳以上の割合は平成 26 年 22.5%と、超高齢化社会の基準 21%を超えた。(平成 2 年 11%の倍)
 - 👉 人口減少社会はどんな問題を抱えているのか。
 - ① 市民数の減少 ⇒ 生産(サービス)と消費の減速
 - ② 高齢者の増加、高齢化の進展 ⇒ 福祉負担の増大、社会保障費の増加
 - ③ 子どもの減少 ⇒ コミュニティの活気の後退
 - 👉 社会経済そのものが縮小し、活力減退の方向に進みかねません。
- 2 『大災害のリスク』問題

南海トラフ地震予想や各地で見られる烈しい気象といった大規模な自然災害への懸念に対しまちづくりの観点からの対応がすすめられてきている。
- 3 『老朽化社会』問題

戦後、特に 1970 年代に大きく蓄積してきた社会資本は老朽化が進み、更新時期を迎える。

若い世代を惹きつける政策の認識と対応について

- 若い世代の定着は産業経済が良くなれば事足りるという問題では無い。
- 人口減少問題の最大の課題は、子どもを産める女性人口の減少。
- 地方で若い女性が減少する理由について就学や就職が挙げられるが、今後は雇用に加え、子育てのしやすさなど住民サービスの充実無しには更に都会への流出が進むであろうといわれている。

👉 **人口減少を甘んじない人口を増やすための攻めの政策が求められており、若い世代とりわけ子どもを持つ、持つことを希望する世代が福祉・住宅・医療など行政に何を求めているのか調査する必要がある。**

将来を見据えた災害に強いまちづくりの考え方について

- 本市の災害リスクについては、3.11 以来地震がもたらす家屋の倒壊や火災の発生、液状化、津波などの情報を公開してきた。【もっと詳細に公開すべき】
- そこへ温暖化の影響によると思われる広島の大規模な土石流など、今まで忘れ去られてきた災害のリスクが表面化してきた。
- 東日本大震災での片田教授はすばらしい実績を残した。避難について子どもたちに教え込み、波打ち際にある小中学校からの避難を実践したことにより助かった「釜石の奇跡」という事例は有名。
- しかし、そもそも小中学校が丘の上などの安全な場所にあれば子どもたちを守れるし、地域住民の避難場所にもなる。公共施設をより安全な場所に移していくことが求められている。【災害に強い都市計画】

👉 **改めて論じたいのは 次世代のための大災害のリスクに備えた減災まちづくりの都市計画である。**

広域の観点に立った公共施設再配置の考え方について

- 「公共施設等総合管理計画」策定には東三河はじめ近隣自治体との相互利用など広域的な連携を視野に検討していきたいとの答弁であった。
- 👉 市民の活動範囲は既に広域化が進んでおり、他市の方が「アイプラザ」など本市の施設を使うのはもちろん、その反対も含めて事実上の相互利用が行われている。同時に、アイプラザの様な 1000 名以上収容する大ホールは、東三河に一体いくつあるのかを考えるべきである。
- 人口減少、高齢化など財政を圧迫する要因は大きくなっていき、老朽化した施設の保全には確実に今以上の出費が見込まれる。
- 施設利用の実態や財政負担の見通しも踏まえ、**広域の視点に立った「公共施設等総合管理計画」の早期策定に期待したい。**

持続可能な東三河であれ

- 日本創生会議が今年 5 月に発表した「ストップ・人口減少社会」では、2040 年には全国の半数に当たる 896 自治体が消滅する可能性があるとし、その中にわが東三河の新城市と北設楽 3 町村が含まれており認識を質した・・・
- これを単に山間地の問題として捉えるのではなく、**東三河全体の問題として真剣に受け止め、地域が一体となって、持続可能な地域づくりを進めることが重要である**と考えているとの答弁には東三河中心都市としての気概を感じ大いに共感した。

地域外から人・モノ・資金を呼び込む「シティプロモーション」

■豊橋市は今までは主に豊橋を知ってもらうための事業をシティプロモーションとして展開してきた。

👉 **今後は人口減少社会の中で、都市活力の維持増進を図るため選んでもらえるようなプロモーション活動の展開が必要である。**

👉 **例えば千葉県流山市の様に「子育て世代の共働き夫婦」を狙い撃ちしたマーケティング戦略に取り組む地方都市が現れている。筑波エクスプレス開通により秋葉原から 20 分～25 分「都心から一番近い森のまち」をアピールするとともに、東京圏の子育て共働き夫婦の最大の心配事である「待機児童問題」を保育園の新設と増設によりゼロとし、学童保育の増設、保育所と駅をシャトルで結ぶ駅前保育送迎ステーションなど、働く夫婦に優しい子育て環境を重視するとともに、学ぶ意欲のある子に応える魅力的な学習環境を整備した。**

■民間事業から人材を活用した「母になるなら流山市」「父になるなら流山市」というポスターはキャッチコピーとともに秀逸。

■待機児童ゼロ、優れた産科小児科医療、教育など子育てしやすい豊橋をもっと PR すべきではないか。「子育てするなら 豊橋市が ええじゃないか！」

次は「もっと住みたい 東三河」!

👉 **持続可能な都市とは、都市に住む住民の生活に質が持続的に向上する都市を指すことである。**

■これから本格化する人口減少時代では、地方が地域の実情に応じて様々な課題に対処できるよう、地方分権をこれまで以上に進めていくことが必要となる。

■広域連合で分権型社会を生き抜く地域主権と都市の役割はますます必要になり、「大きな意味での都市管理システム」が求められている。また、管理システムが資産となって蓄積され、新たな産業分野となって立ち現れ、経済面での持続可能な発展にも貢献するのではないかと期待している。

👉 **しかしいくら都市間競争といえども他都市の犠牲の上に立つてはならない。**

持続する都市とは、独立自尊の都市であること。

そして、決して唯我独尊の都市にはならぬこと。

共生他尊の地域づくりをすすめる都市であると思う。

■我が国において我が市が率先垂範し、人口減少、大災害のリスク、老朽化社会といった先進国が未だ経験したことのない大きな課題を克服して、次世代が輝く持続可能な都市(まち)を築くことを心より期待する 😊😊😊



結婚する若き世代に選ばれる、人を幸せにするまちづくりを目指して
写真は私の長女の結婚披露宴です

あとがき 東三河地域には、豊かな自然、固有の伝統文化、農業・製造業など、他の地域が羨む地域資源が点在しています。各市町村は、愛知県や経済団体、大学などと共に策定した東三河振興ビジョンに沿った取り組みを始めようとしているとのこと。これについては、これからはもっと大学を活用すべきではないでしょうか。研究機関ならではの発想や専門性が活かされます。さらに大学生の地域への定着や起業につながれば最高です。

市政報告会のお知らせ

日付 平成 26 年 12 月 18 日(木)
時間 18 時 30 分より
会場 カリオンビル(松葉町二丁目)
お気軽にお越しください!



発行

伊藤とくや事務所
豊橋市松葉町 3-68
FAX : 0532-56-5521
TEL : 0532-53-4556
bbito@mx1.tees.ne.jp
携帯 : 090-3855-9696